

RANDONNEUR PLUS PROJECT

ROAD to RAAM

YUSUKE OCHIAI

2026 RANDONNEUR PLUS PROJECT代表 森脇 裕

—— サイクリスト 落合 佑介 5,000kmの挑戦





OCHIAI VOICE_

「もっと速く、もっと強く。」

2023年、私はアメリカ大陸約4,800kmを横断する“世界で最も過酷”と言われるレース、Race Across AMERICAに挑戦しました。

あの舞台は、ただのレースではありませんでした。支援して下さった345人の想いを背負い、限界を越えるために積み重ねてきた暑熱トレーニングの日々、11人の現地クルー、5人の日本スタッフとともに作り上げた覚悟。あれは、私ひとりの挑戦ではなく、チームの挑戦でした。

本番では、膝の痛み、眠気、股ずれ、身体も心も削られていく感覚の中でペダルを踏み続けました。それでも前に進めたのは、「このレースはひとりでは走れない」「支えてくれる人がいるから、最後まで行ける」そう信じていたからです。

結果は、11日0時間44分。目標には届きませんでした。

しかし、私はあの挑戦を“失敗”だとは思って

いません。世界レベルとの差、戦略の甘さ、体制の課題。すべてを肌で知ることができたからこそ、自分の現在地をはっきりと理解することができました。

「これが今の自分の実力だ。だからこそ、もっと強くなれる」

そう心から思えたのです。

あれから3年。私は走りを一から見直し、身体づくりと戦略を再構築してきました。チームもまた、勝つための体制を整え続けています。

2026年。私は再びRAAMに挑戦します。

悔しさも、痛みも、あの日のすべてを背負って、今度こそ、もっと遠くへ。もっと速く、もっと強く。表彰台を、本気で狙いにいきます。

挑戦は、まだ終わっていません。ここからが、本当のスタートです。この挑戦を、ともに世界へ届けていただけるパートナーを求めています。

PROFILE | 落合 佑介 (おちあい ゆうすけ)

1983年生まれ、奈良県在住。フルタイムワーカーながら、2019年のPBPでアジア人最速の48時間28分でゴール。2023年、アメリカ横断レースRAAM完走。前日本縦断ギネス記録保持者。

OCHIAI HISTORY

- 2009** → 超長距離サイクリング ブルベを始める
- 2011** → BRM604近畿600紀伊半島1周を23時間34分にて完走。第17回Paris-Brest-Parisに初出場。日本人2位の55時間32分にてゴール。
- 2015** → 2回目出場の第19回Paris-Brest-Parisでは日本人2位の50時間32分にて完走。
- 2016** → Bike Across Japan 2400(鹿児島県佐田岬～北海道宗谷岬間 2,400kmのブルベ)を118時間54分にて完走。ギネス認定外ながら、日本縦断最速記録を樹立。BR715北海道1200を48時間32分にて完走。国内1,200キロの最速記録を樹立。
- 2017** → Japanese Odyssey 2017(3,854km/獲得標高35,268m)に日本人として初出場。279時間20分にて全体トップで完走。
- 2018** → Japanese Odyssey 2018(2,800km/獲得標高33,224m)を199時間45分にて全体トップタイムで完走。
- 2019** → 3回目出場の第19回Paris-Brest-Parisではアジア人トップ/全体20位の48時間28分にて完走(ノンサポート記録)。
- 2020** → RAAMの日本予選であるRAA(Ride Around Aomori 距離650キロ)を24時間10分のトップで完走。
- 2021** → 日本縦断ギネス記録(距離2,587キロ)に挑戦し、136時間30分のギネス世界記録を更新(2022年7月認定)。
- 2022** → アメリカ西部の長距離レースRAW(Race Across the West 距離930マイル)を63時間34分でUnder50カテゴリ優勝・総合2位の成績で完走。
- 2023** → 世界最長の自転車タイムトライアルレースRAAM(Race Across AMerica)に参戦。9日目、サポートカーがトラックに追突される事故が発生するも、完走。
- 2024** → 年間の合計走行距離25,548km、合計獲得標高501,715m。
- 2025** → RM430近畿1560大阪を出発し、北海道・千歳へゴールする1,560kmブルベを完走。日本縦断ギネス記録に再び挑戦。結果は四国にてDNF。Japanese Odyssey 2025(2,300km/獲得標高46,000m)を全体トップで完走。年間の合計走行距離29,021km、合計獲得標高528,673m。

Paris-Brest-Paris



パリ・ブレスト・パリ(PBP)は、パリからブルターニュ半島のブレストまでを往復する1,200kmのサイクリングイベントで、1891年に始まった世界最古の自転車イベントである。ブルベの最高峰として知られ、2023年大会には世界から6000人超、日本からも356人が参加した。

Japanese Odyssey



Japanese Odysseyは、日本国内を舞台とするウルトラディスタンスサイクリングイベントで、2015年に始まった。国内最長クラスの大会で、2025年の第10回大会では鹿児島県桜島から四国、紀伊半島、東海地方を通り、長野県松本市までを巡る約2,300km、獲得標高数46,000mのコースが設定された。参加者はチェックポイント通過が必須だが、その間のルートは自由に設定できる。

TEAM VOICE_

「仲間とともに、再び」

5,000kmにもおよぶ広大なアメリカの大地を自分の力と仲間を信じて自転車で横断する、世界一過酷といわれる「Race Across AMerica」。

憧れと恐れを込めて「RAAM」と通称されるこのレースに、ひとりの日本人が、再び挑戦します。

落合佑介。

これまでに超長距離のサイクリングイベントで、ギネスを含む数々の驚異的な記録を打ち立ててきたサイクリストです。

3年前、落合はクルー 11人とともに表彰台を目指し、RAAMに挑戦しました。

気温40度を超える灼熱、標高3,300mの山越え、300kmも続く直線道路、体の痛みと、間断なく訪れる睡魔と戦いながらゴールを目指しました。

迎えた9日目。落合をサポートする車が偶発的な事故に遭い走行不能に。15時間のタイムロス余儀なくされ、表彰台を狙う挑戦は終わりました。上位にいただけに、悔やまれる事故でした。

それから3年の間、チームを率いたチーフクル

ーの森脇裕の下、勝つための戦略づくりが続けられてきました。落合本人も自らの走りを一から見直し、10日間でアメリカを横断するための走りを磨いてきました。

そんな彼の走りをサポートしようと、クルーも再び集結しました。

「失敗は終わりではない。仲間がいれば、もう一度前に進める」

2026年6月、一度は叶わなかったRAAMの表彰台を目指し、私たちは再び挑戦します。

困難に向き合い、失敗を糧にし、仲間とともに前進する。この姿勢は、スポーツに限らず、企業活動とも通じるものだ私たちは考えています。

本挑戦へのご賛同とご支援を、心よりお願い申し上げます。





2026.6.16 RACE START

RAAM SCHEDULE

- 6.6 クルー先発隊・渡米：サポートカーの手配ほか準備
- 6.16 レーススタート（日本時間6.17 早朝5:00）
- 6.27 レース終了
- 6.28 帰国



数字で見るRAAM

RAAM

1982年から開催されている「レース・アクロス・アメリカ (Race Across AMerica、RAAM)」は、世界で最も過酷な自転車耐久レースであり、5,000kmにおよぶ距離で争われる。制限時間は288時間(12日間)で、グランツール(ジロ・デ・イタリア、ツール・ド・フランス、プエルタ・ア・エスパーニャ)とは異なり、シングル・ステージの世界最長のタイムトライアルレースである。

「コース」の数字



「レーサー」の数字



「サポート」の数字



私たちの目標とするもの

ランドナープラスプロジェクト

RANDONNEUR PLUS PROJECT

私たちは以下の2つのコンセプトをもとにプロジェクトを進めていきます。

1

長距離アマチュアサイクリストが
個人での挑戦が困難な
サイクリングイベントへの参戦サポート

2

長距離サイクリングが
社会貢献活動につながるような
仕組みづくりの構築

代表 森脇裕

日本のブルベ黎明期より長距離サイクリングに取り組み、とりわけ海外ブルベに精通。ISR2000を世界で初めて取得(4大陸の2,000キロ超のブルベ)、令和元年に日本縦断2,700キロを186時間で走破後、チャリティーイベントを実施し、北海道胆振地震への募金活動を実施。オダックス近畿所属。大阪サイクリング協会理事。

ブルベは日本にも広く根付き、1,200kmを超える大会に挑むランドヌールたちの姿は、長距離サイクリングの新たな文化を築いてきました。その一方で、世界最高峰のレースへの挑戦には、資金やサポート体制など多くの壁が立ちはだかっています。RPPは、そうしたさらなる高みを目指すサイクリストを支えるために立ち上げられました。名称の「プラス」には、ランドヌールの挑戦を後押しするという意味に加え、その挑戦を社会への貢献へとつなげたいという志も込められています。私たちは、自転車で走ることを可能にする道路や自然、地域社会への敬意を忘れず、防災・減災や復興支援といった活動にも目を向けながら、持続可能な挑戦のあり方を模索してまいります。

アメリカレース参戦における資金予測とご協力のお願い

アメリカのレース参戦資金の内訳 (予測：約800万円)

RAAM (Race Across AMerica) 2026年6月予定(約20日滞在)

参加費	約 50 万円	落合支払い済み
渡航費	約 30 万円/人	<ul style="list-style-type: none"> ● 帯同ボランティアスタッフ 個別負担(保険含む) (現地スタッフは別)
滞在費	約 480 万円	落合負担 内訳(スタッフ10名) <ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊費 約60万円 ● 移動費 約300万円 ● 食費 約70万円 ● 現地機材他 約50万円

ご協力のお願い

落合負担によるチームの現地滞在費から補填を開始。次にボランティアスタッフ自身の負担である渡航費の補てんを行う。最後に参加費補填を行い、余剰はRANDONNEUR PLUS PROJECTの活動費(自転車を活用した社会貢献活動をベース)とする。

スポンサード

落合選手への機材提供、および直接的な金銭によるサポートをいただける企業様、団体様に向けたご協力のお願いです。

クラウドファンディング

ファンドレイジングサービスを利用し、RANDONNEUR PLUS PROJECTが実施する。クラウドファンディングは2026年4月末を予定しています。

物販

記念サコッシュやジャージなどの物販を実施する。その他、物販に協力いただける場合ご相談ください。

スポンサードについてのお願いとご意思確認

以下よりご支援いただく方法をお選びください。(複数可能)

1

落合選手への機材提供

ホームページ、SNSなどを通じてサポートいただいた機材の宣伝を行います。

2

クラウドファンディングの返礼品へのご協力

ご提供いただいた返礼品をクラウドファンディング協力者へ提供いたします。ホームページ、SNSなどを通じて返礼品や貴社に関するの宣伝を行います。

3

直接的な金銭のサポート(1口)

ゴールドスポンサー **50** 万円

シルバースポンサー **30** 万円

ブロンズスポンサー **10** 万円

※1) 2023年度、前回RAAM参戦時よりすでに機材提供をいただいているスポンサー様へも、2026年度としてあらためてご連絡申し上げます。

※1)、2)、3)に関わらず、RANDONNEUR PLUS PROJECTウェブサイトへスポンサー様のロゴを掲載いたします。

※その他、販促品など活動宣伝用の媒体へのロゴ掲載については個別にご相談させていただきます。



RAAM本選はサポート人員と滞在時間が増えるため、個人負担がかなり大きくなります。是非とも直接的な金銭サポートのご協力をお願いします。

レース期間中、スポンサー様のロゴをサポートカーやレーサーのジャージ、クルーのユニフォームなどに掲示し宣伝いたします。当プロジェクトがやレーサーのジャージ、クルーのユニフォームなどメディアに対して、スポンサー様のロゴ、名称を掲載いたします。

メディア掲載実績

2019



『CYCLESPOrts』2019年2月号
インタビュー掲載

2020



『CYCLESPOrts』2020年3月号
インタビュー掲載

2021



『CYCLESPOrts』2021年1月号
日本縦断ギネス ルポ掲載

2022



『CYCLESPOrts』2022年9月号
RAW参戦 ルポ掲載



『Beyond Magazine』
ルポ掲載 前後編

2023



『CYCLE SPORTS』2023年9月号
RAAM参戦 ルポ掲載

2024-2025



DE ROSAオーナーズクラブ
コラム『Long ride life』執筆

Instagram



X



Threads



RPP HP

